TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　439語

Why the Serpent sheds his Skin

ヘビはなぜ皮をぬぐ

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Lily

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　フクロウのおじいさんのヘビは、ひみつを守ってあげるやさしいおじいさん。ところがある日、フクロウはヘビにとんでもないおねがいをして……。

The serpent is the grandfather of the owl, and once upon a time if the owl needed help, she would say, "My grandfather will come and help me," but now he never comes to her. This story tells why.

When the owl carried away the little quail, she went to the serpent and said, "Grandfather, you will not tell the quail that I have her son, will you?"

"No," answered the serpent, "I will keep your secret. I will not whisper it to any one." So when the mother quail asked all the animals, "Can you tell me who has carried away my little son?" the serpent answered, "I have been sound asleep. How could I know?"

After the quail had become a snipe and had gone to live in the marsh among the reeds, the cruel owl looked everywhere for him, and at last she saw him standing beside a great stone in the water.

She went to the serpent and said, "Grandfather, will you do something for me?"

"I will," hissed the serpent softly, "What is it?"

"Only to take a drink of water," answered the owl. "Come and drink all the water in the marsh, and then I can catch the quail that I made into a snipe."

The serpent drank and drank, but still there was water in the marsh.

"Why do you not drink faster?" cried the owl. "I shall never get the snipe."

The serpent drank till he could drink no more, and still the water stood in the marsh. The owl could not see well by day, and the serpent could not see above the reeds and rushes, so they did not know that the water from the pond was coming into the marsh faster than the serpent could drink it.

Still the serpent drank, and at last his skin burst.

"Oh," he cried, "my skin has burst. Help me to fasten it together."

"My skin never bursts," said the owl. "If you will drink the water from the marsh, I will help you, but I will not fasten any skin together till I get that snipe."

The serpent had done all that he could to help the owl, and now he was angry. He was afraid, too, for he did not know what would happen to him, and he lay on the ground trembling and quivering. It was not long before his old skin fell off, and then he saw that under it was a beautiful new one, all bright and shining. He sheds his old skin every year now, but never again has he done anything to help the owl.



ヘビはフクロウのおじいさんです。むかしは、フクロウはこまったことがあると「おじいさんが助けに来てくれるわ」と言ったものでしたが、今ではヘビはけっしてフクロウのところへ来ません。このおはなしは、そのわけをお話しします。

フクロウがウズラの子をつれさったとき、フクロウはヘビのところへ行って言いました。「おじいさん、わたしがウズラのむすこをつれているって、ウズラには言わないでくれるわよね？」

「言わないとも」とヘビは答えました。「おまえのひみつは守るよ。だれにもささやいたりしないさ。」それで、お母さんウズラが動物たちみんなに「だれがうちのむすこをつれさったか知りませんか？」とたずねたとき、ヘビは「わしはぐっすりねむっていたからね。知るわけがないだろう？」と答えました。

ウズラの子がシギになって、ぬま地のアシのあいだにすむようになったあと、いじわるなフクロウはあちこちさがし回り、とうとう水の中の大きな石のそばに立っているシギを見つけました。

フクロウはヘビのところへ行って言いました。「おじいさん、おねがいがあるの。」

「いいとも」とヘビはそっとシューッと言いました。「何だね？」

「水を飲んでくれるだけでいいの」とフクロウは答えました。「ぬま地の水をぜんぶ飲んでちょうだい。そうしたら、わたしがシギにしたあのウズラをつかまえられるの。」

ヘビは飲んで飲んで飲みましたが、ぬま地にはまだ水がありました。

「どうしてもっと速く飲まないの？」とフクロウはさけびました。「これじゃあシギがつかまえられないわ。」

ヘビはもうこれ以上飲めないというまで飲みましたが、それでもぬま地には水がたまっていました。フクロウは昼間はよく目が見えず、ヘビはアシやイグサの上が見えなかったので、池の水が、ヘビが飲むよりも速くぬま地に流れこんでいることに気がつきませんでした。

それでもヘビは飲みつづけ、とうとう皮がやぶれてしまいました。

「ああ」とヘビはさけびました。「皮がやぶれてしまった。くっつけるのを手つだっておくれ。」

「わたしの皮はやぶれたりしないわ」とフクロウは言いました。「ぬま地の水を飲んでくれたら助けてあげる。でも、あのシギをつかまえるまでは、皮なんかくっつけてあげないわ。」

ヘビはフクロウを助けるためにできるだけのことをしたので、こんどはおこりました。それにこわくもありました。自分がどうなってしまうのかわからなかったので、地面に横たわってぶるぶるふるえていました。まもなく古い皮がぼろりとはがれ落ちました。すると、その下に、ぴかぴかにかがやく美しい新しい皮があるのがわかりました。今ではヘビは毎年古い皮をぬぎますが、二度とフクロウを助けることはありません。

たんご と クイズ ヘビはなぜ皮をぬぐ

serpent ヘビ	owl フクロウ	grandfather おじいさん
secret ひみつ	stone 石	water 水
skin 皮		

Q1 フクロウはヘビに何をおねがいした？

① ぬま地の水をぜんぶ飲むこと　② シギをつかまえること　③ 巣をつくること

Q2 ヘビがいくら飲んでも水がへらなかったのはどうして？

① 雨がふっていたから　② フクロウが水を足していたから　③ 池の水が流れこんでいたから

Q3 古い皮がはがれたあと、ヘビはどうなった？

① 小さくなった　② ぴかぴかの新しい皮があった　③ はねが生えた

こたえ

Q1 ① 水がなくなればシギをつかまえられると思い、フクロウはヘビにぬま地の水をぜんぶ飲むようにたのみました。

Q2 ③ 池の水が、ヘビが飲むよりも速くぬま地に流れこんでいたのです。でもふたりとも気がつきませんでした。

Q3 ② 古い皮の下には、ぴかぴかにかがやく美しい新しい皮がありました。今でもヘビは毎年皮をぬぎます。



原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Lily（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。